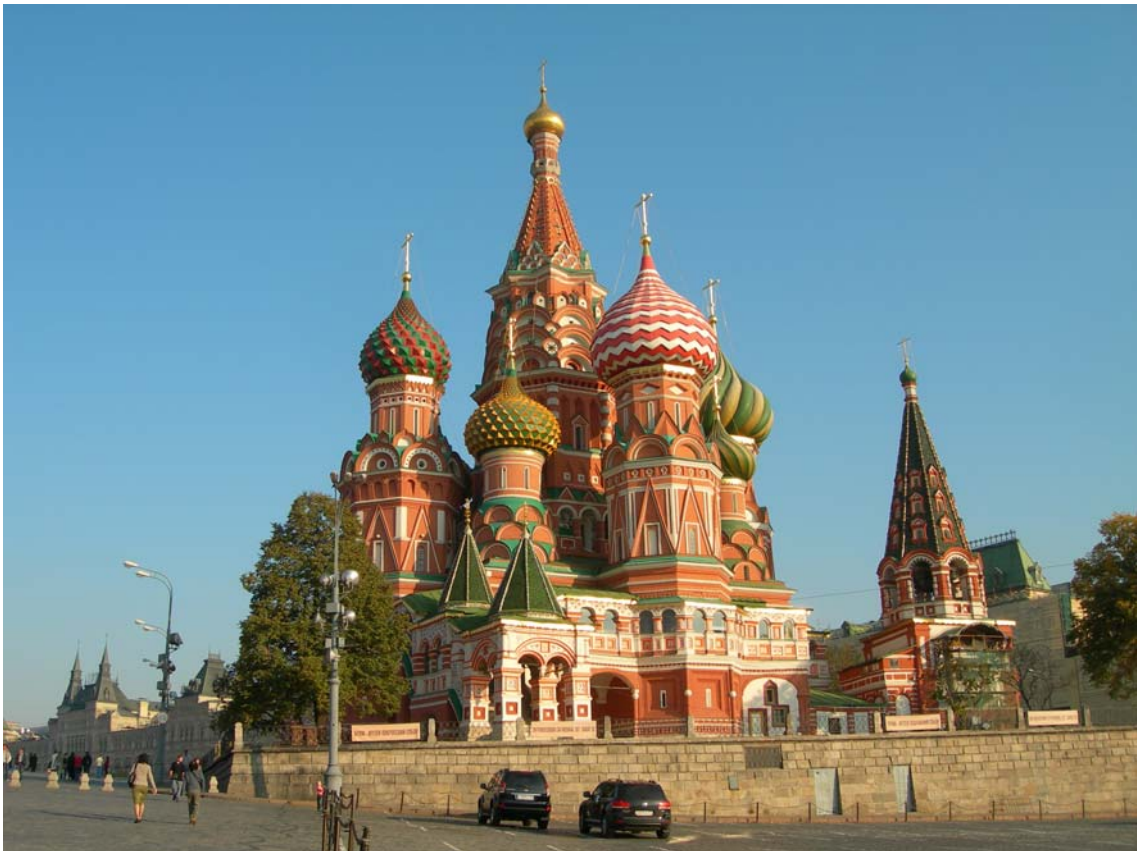


～モスクワ～ ～モスクワ～

モスクワがロシア年代記に登場するのは 1147 年。正式にロシアの首都となったのは 1480 年とされ、250 年にわたるモンゴルの支配から開放された年です。ピョートル大帝時代から 200 年あまり、首都を現在のサンクトペテルブルクにゆずっていましたが、社会主義政権樹立の翌年である 1918 年 3 月にはソ連の首都に返り咲きました。ソ連解体後も、ロシア連邦の首都として名実ともに国の政治、経済、文化の中心となっています。



クレムリン The Kremlin

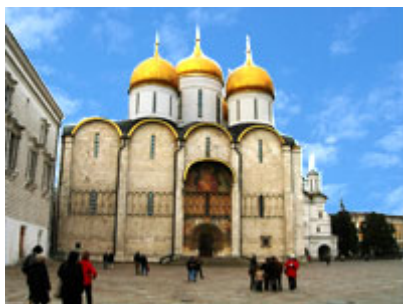
市の中心部にあるクレムリンの敷地内には、政治上の重要会議が開かれる大クレムリン宮殿、大きな会議やバレエ・オペラを上演する大会宮殿、中世に建てられた三つの寺院、大砲の王様、鐘の王様などがあります。一番の見ものは歴代皇帝の用いた宝物などが展示されている武器庫です。



クレムリンは、もともと「城砦」の意味をもち、1156年モスクワの創立者のユーリー・ドルゴルーキー公がボロビツキー丘の上に小さな木造の砦を作ったのがはじまりです。その後、14世紀に石壁の城壁になり、1485年から1495年にほぼ現在の赤レンガの壁になりました。現在のクレムリンは、20の塔を持つ全長2235mの赤壁でほぼ三角形に囲まれています。壁の高さは5~19m、厚さは5.5mあります。モスクワ市はこのクレムリンを中心に発展してきました。

○武器庫 Armoury

武器を保存する所として16世紀に作られましたが、後に宝物殿となったものです。ピョートル大帝の衣服をはじめ、歴代皇帝の宝物、装身具、王冠、玉座など金銀財宝が展示されています。



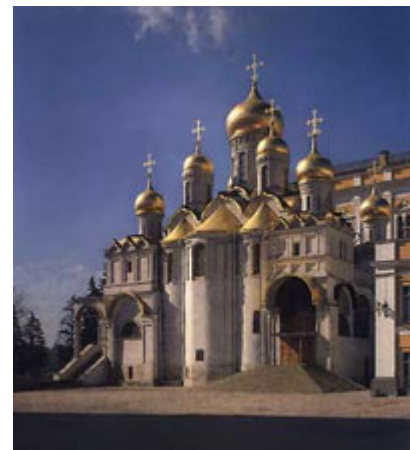
○ウスペンスキー寺院 Assumption Cathedral

「聖母昇天聖堂」の意味で、1472年~79年にウラジーミルのウスペンスキー寺院を模して作られました。

ロシアの国教の総本山として皇帝の戴冠式が執り行われていたところであり、1551年作のイワン雷帝の木造の玉座があります。

○ブラゴベシエンスキー寺院 Annunciation Cathedral

「受胎告知聖堂」の意味で、1484~89年に作られました。有名なイコン(聖像画)画家ルブリョフなどのイコンがあります。





○アルハンゲリスキー寺院 Archangel Cathedral
1505～09 年に建てられ、ピョートル大帝以前の皇帝の墓所となっています。イワン雷帝の肖像があります。

○大砲の王様 Tsar Cannon

青銅の大砲で、1586 年に作られ、当時としては最新式のものでした。重さ約 40t、砲身 5m、口径 890mm という巨砲ですが、1度も発射されたことはありません。傍らにある大きな砲弾は、19 世紀につくられたものです。



○鐘の王様 Tsar Bell

高さ 14m、直径 6m、重さ 200t の巨大な鐘で、1735 年の作です。あまりの重さにつり上げることができないでいたところ、1737 年モスクワ大火に会い、一部が欠けてしまいました。1.5t の破片がかたわらに置かれています。

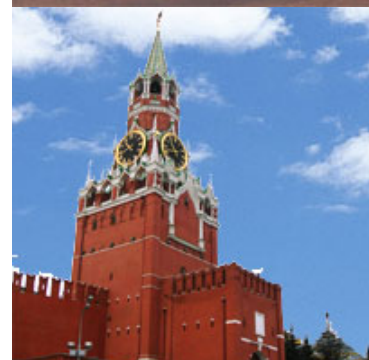
○閣僚会議の建物(旧元老院) The Senate

中央に丸屋根をもつクラシックスタイルで、18 世紀に建てられたものです。この建物の 4 階には、レーニンが執務した書斎が当時のまま保存されています。



○スパスカヤ塔 Saviour Gate Tower

クレムリンを囲む 20 の塔のうち最も重要な塔で、表玄関にあたる場所にそびえています。高さ 74m、塔の上の大時計はモスクワ時間を正確に表示しています。塔の先にあるルビーの赤い星は、1937 年につけられました。



レーニン廟 Lenin Mausoleum

1924年8月シチュセフの設計で作られましたが、当初は木造でした。この廟の中にはレーニンの遺体が安置されています。廟の背後の城壁は革命に殉じた有名な人々の墓となっており、スターリン、ガガーリン、日本の片山潜もここに眠っている。



すずめが丘(旧レーニン丘) Sparrow hills

モスクワ大学を背にした市の展望台で、眼下の中央競技場は1980年モスクワオリンピックの際のメインスタジアムです。モスクワのパノラマを見るために観光客が一度は訪れるところです。



モスクワ大学 Moscow University



市の西南の、モスクワ川が大きく湾曲した部分の丘の上にそびえたっているのが、モスクワ大学の新校舎です。32階建ての中央校舎、植物園、並木道など320haにもおよぶ広大なキャンパスには、40の建物があります。中央正面の中庭には、創立者ロモノソフの像が立っています。

ノボデービチ女子修道院 Novodevichiy Convent & Cemetery



1534年、長年ポーランド・リトアニア公国の傘下にあったスモレンスクの町がロシアの統治下に入ったことを記念して、イワン雷帝の父、ワシーリー3世によって設立されたのがこの修道院です。中世寺院建築アンサンブルの傑作のひとつでもあります。モスクワ川の辺にあり、12の望楼をもつ外壁で囲まれ、内部には5つの金色のドームが輝くスモレンスキー寺院があります。1689年、ピョートル大帝の異母姉妹の姉ソフィアがピョートル殺害とクーデターの陰謀を企てましたが失敗し、ピョートルに捕らえられてここに幽閉され、その生涯をここで閉じたことでも良く知られています。付属の墓地には、ゴーゴリー、チャーホフ等ロシアの有名な作家、芸術家が眠っています。

国立歴史博物館 State History Museum

1872年に創設され、当時開催されていたピョートル大帝の200年祭記念行事である科学技術展の歴史およびセヴァストポリ部門の展示品が収蔵品に追加されました。1881年には帝立ロシア歴史博物館に、1925年には国立歴史博物館となっていました。石器時代から今世紀に至る記念文化財収蔵品は450万点を越えるとされています。1986年からの大修復で長い間休館となっていました。1997年9月より開館されています。左右対称の二つの尖塔には双頭の鷲が飾りつけられており、建物は重要文化財に指定されています。



トレチャコフ美術館 The Tretyakov Gallery



モスクワの商人であるパーヴェル・トレチャコフが、1856年から死の直前まで、自ら収集したロシア絵画を中心に展示されている美術館です。トレチャコフは、自国の画家たちの優れた作品を収集し、公共美術館を開設することを念頭においていました。遺言により、コレクションは1892年モスクワ市に寄贈されました。

1917年の10月社会主義革命後は国に継承され、1918年以後国有化された宮殿や豪邸等の美術コレクションがあり、1920年には他の美術館のコレクションも加えられ、現在ではロシア最大の美術館の一つに数えられています。美術館の特徴は、イコン（聖像画）の充実した収蔵です。19世紀のリアリズム絵画を中心とした「移動展派」と呼ばれる、美術アカデミーに反旗を翻した画家たちの作品をあますことなく見ることができます。また、トレチャコフは同時代の文化人であるトルストイ、ドストエフスキー、チャイコフスキー他の肖像画を描かせて記録として残しています。

プーシキン美術館 Pushkin Fine Art Museum

モスクワ大学教授ツベターエフの提唱により、同大学付属美術館が1912年に公共美術館に生まれ変わり、1937年ロシアを代表する詩人プーシキンの名称が冠せられました。20世紀絵画の巨匠の作品も充実しています。



~Memo~